

為忠家初度百首

夏

叢中螢火

かぜそよぐあさぢまじりのかるかやに
ほたるとびかふ夏のゆふぐれ

しげりあふ草ばをわけて夏むしの
いかにみだれてとびまがふらん

あほあらしきのもりのしたくさくちぬらい
つきたのはらにほたるとびかふ

風ふけばひかりをみだるほたるかな

さはのるぐさのしずかならねば

あさぢはらおくしらつゆもかくれなく

すだくほたるのかげにみるかな

くさふかみほたるとびかふゆふされば

をばながすゑにたまぞちりける

夏むしのとぶひののべにまがふかな

ふるさみだれにくさぢくつらん

夏の日のくるればともすかがりびの

いくよかかはにかげうつるらん

「国歌大観」より